○議長(森 弘秋君) ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

2番 良峯喜久男君。

○2番(良峯喜久男君) 2番、良峯喜久男でございます。私からは、村内に潜む危険箇所への対応について、そして各施設のバリアフリー化について、2点質問させていただきます。

新型コロナウイルスの感染が世界中で報告されている中、日本でも毎日、新しく感染者が確認されたとの報道がなされております。これ以上の拡大は、さらなる混乱を招き、国民の生活や経済に甚大な被害を及ぼします。早々の終息を願うばかりです。

それでは、安心・安全な住みやすい村づくりを目指す中で、質問させていただき、村の対応をお聞かせ願いたいと思います。

1つ目の質問ですが、9月定例議会での一般質問で、村内に潜む危険箇所を2カ所挙げさせていただき、対応について答弁をいただいております。

竹内地区の小学校から県道富山上市線までの村道東芦原舟橋駅線のV S側溝による用水転落防止のための改修工事、拡幅工事につきましては、対策として交通規制、有蓋側溝の検討をしたが、地元住民や事業者の日常的な交通に影響を及ぼすため困難であると考えている。今後においては、警察、自治会、学校及び関係機関と協議し、学校での危険箇所の周知や注意喚起の立て看板を設置して、交通事故、転落事故防止に努めたいとの答弁をいただいております。

しかしながら、今回、竹内地区からの要望事項に、小学校から県道富山上市線まで、お年寄りの生活道路であり、通学道路でもあります。車とのすれ違い時、用水に落ちる危険があるため、用水を改良し、ふたをしてほしい。まさに私が9月定例議会で質問させていただいたことです。

また、舟橋地区の松田踏切から北へ延びる村道で、用水むき出しの区間に転落防止柵の設置につきましては、農業用水路にふたをすることは、農業に支障を来すおそれから、基本的に行っていない。しかし、用水への転落事故が新聞等で報道されており、管理者の舟橋村土地改良区とも協議・検討を進めていくとの答弁をいただいております。

この質問に対しても、舟橋地区から、ことしの要望として提出されております。9月の答弁では、地元住民、事業者に影響を与える。農業に支障を来すとのことから、協議し、検討をしていくと答弁されております。

地元住民から改めて要望が出るということは、それだけ皆様も危険を感じられておられるからではと思います。特に竹内地区の要望につきましては、新しい団地ができ、村道東芦原舟橋駅線への歩行者用のアクセス道路も新設され、歩行者の通行量も増えることは間違いありません。早急の対応が必要だと考えます。

2つ目ですが、各施設のバリアフリー化についてお伺いします。

平成26年6月定例議会におきまして、庁舎のバリアフリー化についての質問がされております。5年経過した令和元年末には、人口約3,100名で約550名の65歳以上の方が当村にお住まいになっておられます。今後、ますます高齢者の人口が増えていく中で、各施設のバリアフリー化に向けての取り組みをお願いしたいと考えます。

まず、庁舎ですが、西側玄関入り口のスロープ化のお願いです。平成26年の質問には、高齢者の西側玄関の利用率が多いが、南側への車の乗り入れ等を考慮すると、設置は困難であると答弁されています。大型車の通行に支障が出るとは思いますが、普通車は、注意すれば十分スペース確保は可能ではないかと思えます。

次に、舟橋会館であります。下に向けてのスロープは設置されておりますが、上に向けてのスロープがなく、荷物を持っての階段の上りおりは、高齢者に少し負担が大きいとの声もあります。

最後に、舟橋駅舎ですが、地下道にはスロープがなく、やはり高齢者には負担が大きくなっています。私ごとではありますが、新しく舟橋会館、舟橋駅舎が開設された当時はまだ40代で何ら気にすることなく利用させていただいておりましたが、私も2年前から65歳以上の人口数でカウントされる年になり、特に階段の上りおりには、苦痛に思うことが多く感じられるようになりました。そこで、両施設の階段にスロープの設置をお願いするものです。

議員として、1年を通しまして住民目線からの質問を一貫してさせていただきました。今回も地区住民、そして高齢者目線からの質問をさせていただきました。村当局の発展的な回答を期待しています。

以上です。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 2番良峯議員の、村内危険箇所の対応についてのご質問にお答えいたします。

議員ご指摘の、用水路等の危険箇所の対応と解消につきましては、重要な問題と認識

いたしております。

本県では、富山県農業用水路事故防止推進会議が設置されまして、昨年1月から5回の会議やワークショップでの審議を経て、12月に富山県農業用水路安全対策ガイドラインが提示されたところでございます。

当該ガイドラインでは、その中で安全対策の3つの基本方針として、1つはソフト対策の継続的かつ積極的な推進、2つ目が効果的なハード・セミハード対策、3つ目が行政、関係団体や地域組織等の連携強化が提起されております。

1つ目のソフト対策としては、注意喚起看板の設置や広報活動、ワークショップを通じた安全点検やマップづくりが挙げられております。2つ目のハード対策としては、フェンスの設置や暗渠化、セミハード対策としては、視認性向上を図るための道路びょうの設置、簡易なふたがけや法面の整備等が示されております。3つ目の連携強化につきましては、道路や農業用水の施設管理者と警察、消防、地域住民等が相互連携を図り安全対策を進めることとされております。

この基本方針を踏まえまして、本村の基幹用水路の管理者であります舟橋村土地改良区は、昨年7月に理事会を開催いたしまして、地区の理事さんに地域内の危険箇所を取りまとめを依頼するとともに、11月には現地巡視を実施。その後、当該土地改良区で対応する箇所と、地区から村への要望箇所及び関係機関等へ対応をお願いするものに整理をされました。議員が指摘された箇所も、土地改良区での現地確認から自治会を経て、地区要望となったものであります。

村道東芦原舟橋駅線については、重要箇所として改修を検討しておりますが、幅の広い水路であり曲線部も多いことから工事費が多額となることを見込まれますので、国の補助事業であります社会資本整備総合交付金の充当を予定しております。一方では、早急対応が可能な富山県農業用水路安全対策ガイドラインに示す効果的なハード・セミハード対策として、該当箇所にふたがけ等を実施することも検討してまいることを申し上げまして、答弁いたします。

○議長（森 弘秋君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 2番良峯議員のバリアフリーについてのご質問にお答えをします。

日本は現在、諸外国に例を見ない急激な高齢化が進み、高齢社会が到来しております。一方では、障害の有無にかかわらず、ともに生活し活動できる社会を目指すノーマライ

ゼーションの理念も浸透してまいりました。

このような世情の中、本村ではこれまで、高齢者や障害者など全村民の皆様が自立生活を送れるよう、公共施設等のバリアフリー化に努めてまいりました。

役場庁舎では、平成26年から27年度にエレベーターの設置、西側玄関の入り口等に手すりを整備したほか、1階には多目的トイレも設置いたしております。また、公衆トイレには順次手すりを設置しているほか、新年度予算には、舟橋会館1階トイレを洋式化する費用も計上しております。

続いて、身体の不自由な方、妊婦、高齢者などが安心・快適に利用できるよう、公共施設や公園等の駐車場に、優先駐車スペースの位置を示すサインの路面表示も順次進めてまいりました。昨年は、舟橋会館正面に2台分のスペースを確保したところであります。

富山県では、車椅子使用者や障害のある方などをはじめ、歩行が困難な方が障害者等用駐車場を円滑に優先利用できるよう、令和2年4月1日から富山県ゆずりあいパーキング利用証制度を開始いたします。

本村におきましても、この制度を対象者の方が確実に利用していただけるよう、今後も優先利用できるスペースの確保や制度の周知に努めるとともに、議員からご指摘がありました3点につきましても含めまして、公共施設等の状況を再度点検いたしまして、バリアフリーの理念であります、社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障害や精神的な障壁を取り除くための施策に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます、答弁いたします。

○議長（森 弘秋君） 良峯喜久男君。

○2番（良峯喜久男君） いずれにしましても、京坪川河川公園駐車場から森田さん宅までの拡幅工事も整備されまして、舟橋駅駐車場へ向けての交通量が増えるのは目に見えております。せめて酒井さん宅から駐車場までの早急の整備はできないものなのでしょうか。

よろしく願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 2番良峯議員の再質問にお答えいたします。

まず、2つの側面がありまして、駐車場までの交通の利便性を高めるための工事であれば、社会資本整備を使うしかございません。ただ、今本村で検討しているものにつき

ましては、あくまでも通行者が用水に落ちないための安全対策として、富山県のほうのマニュアルに基づくものを検討しているということでございますので、まずはふたがけを優先して考えるべきかなというふうに、現時点では思っております。

以上、答弁といたします。